



2023.02.24

No.30-17

川口ぞうれっしゃ合唱団

ロシアのウクライナ侵攻から今日で1年。『徹子の部屋』でタモリさんが発した、今年は「新しい戦前になる」という言葉も話題となっていますが、警鐘は以前からさまざまな形で鳴らされていました。

2004年に出版された『戦争のつくりかた』という絵本には、国が戦争を起こすまでにおこる出来事が述べられていて、残念ながら、そのいくつかが現実のものとなっています。たとえば「わたしたちの国を守るだけだった自衛隊が、武器を持ってよその国にでかけるようになります。…せめられそうだと思ったら、先にこっちからせめる、とも言うようになります。」「学校では、いい国民はなにをしなければならないか、をおそわります。」「戦争にはお金がたくさんかかります。そこで政府は、税金をふやしたり、わたしたちのくらしのために使うはずのお金をへらしたり、わたしたちからも借りたりして、お金を集めます。みかたの国が戦争するときには、お金をあげたりもします。」などです。



「岸田首相、なぜ防衛費をあげるのですか」と、総合学習で平和について学んでいる世田谷区の小学6年生36人が、十項目の質問をまとめ、首相官邸に当てて手紙を出しました。「なぜ平和憲法があるのに、日本に軍隊があるのですか。」「なぜ自衛隊が、国を守る以外に攻めてもいいというルールになったのですか。」「国債はどうやって返していくつもりですか。」…近未来を担う、まさにその時代の当事者となる国民の真摯な質問に、ぜひとも誠意ある回答をしてもらいたいと思います。戦後間もなくの大人たちがそうであったように。

『戦争のつくりかた』は、このように結んでいます。「ここに書いてあることがひとつでもおこっていると気づいたら、おとなたちに、「たいへんだよ、なんとかしようよ」と言ってください。おとなは、「いそがしい」とか言って、こういうことになかなか気づこうとしませんから」「わたしたちは、未来をつくりだすことができます。戦争しない方法を、えらびとることも。」 ※『戦争のつくりかた』のショートムービーをYouTubeで観ることができます

